通信規格分科会\_活動報告（v03r02）

1. 目的

中小企業EDIと既存のEDIの融合を実現する。そのため、「次世代企業間データ連携調査事業」の通信に係る部分を通信規格としてとりまとめ、すでにEDIを実施している企業や業界と容易に接続できる「データ連携プラットフォーム（後述）」を提示する。

1. 検討体制
   * 通信規格分科会は、技術部会の下部組織とする。
   * 通信やサービスに強いベンダーおよび業界関係者を中心に組織し、既存EDIとも融合可能な次世代企業間データ連携機能について検討する。

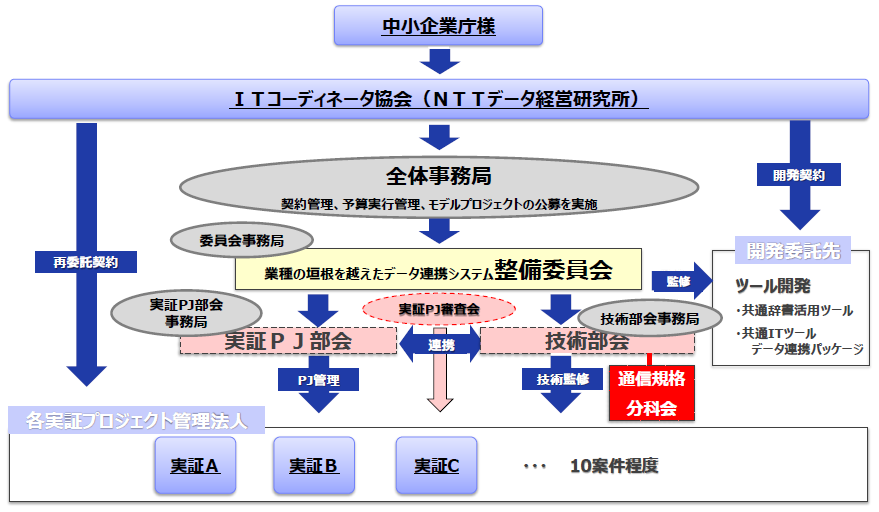


図1　通信規格分科会の位置づけ

1. 検討内容
2. 実証プロジェクト推進のためのサポート
3. 既存EDIとの融合と普及・展開
4. 目標

今年度は、実証プロジェクトを成功裏に収めることを最優先とし、それらのプロジェクトが、今後既存のEDIと融合するための通信規格を取りまとめ**「データ連携プラットフォーム」**として提示する。

来年度以降、引き継ぐことができる組織があれば、今年度の結果を検証し、データ連携プラットフォームの活用により、ビジネスデータ連携基盤（後述）の普及と自走化を目指す。

1. 活動範囲

「ビジネスデータ連携基盤」とは、業界に特定されない国際標準（国連CEFACT標準）のもと、業務領域で柔軟に企業間データ変換を行う業務要件を中心にとらえた基盤。中小企業共通EDI、金融連携、IoT連携など、業務面から企業間データ連携を実現する。

「データ連携プラットフォーム」とは、ビジネスデータ連携基盤を構成する通信やデータ変換、データ管理、運用、セキュリティをつかさどる機能群をいう。なお、本来ならば法的背景等も含まれるが、通信規格分科会の対象範囲外であるため、今回の検討範囲からは除外する。

また、将来グローバル連携を可能とする認識のもとで活動を続ける。



図2　ビジネスデータ連携基盤とデータ連携プラットフォーム［最終形］関係

「実証プロジェクトのサポート」は、実証プロジェクト採択事業のEDIを、中小企業はもとより中大手企業が実施しているEDIへ融合できるよう仕様や環境を整備する。

「現EDIとの融合・普及展開」は、データ連携プラットフォームの機能群と実現方法、運用モデルを検討する。

機能を実現する方法として、パッケージ利用を中心に行うが、個別開発を否定するものではない。

運用には、企業の個別導入とサービス利用があるので、環境に応じた運用方法を取りまとめる。

詳細は分科会で検討し、「データ連携プラットフォーム実装ガイドライン」として提示する。

1. 活動内容

通信規格分科会は、全体を統括する分科会とその下に属する課題分析WGで構成される。

WGで検討した内容について、分科会が承認する。

［分科会］

通信規格分科会の活動を決めWGに作業指示を出す。初年度は技術部会で承認を受けた内容で活動を進める。

WGに適宜進捗報告を求め、全体を把握する。WGは、都度分科会に状況を報告し、相互の連携を図る。分科会は合計４回程度開催する。

【分科会：開催日】

・5/18（木）第1回：分科会立ち上げと、活動内容の承認

［課題分析WG］

WGは必要に応じてチームを編成し、スムーズな活動を進める。

課題分析WGは合計10回程度開催する。

【課題分析WG】

・6/1（木）第1回：課題分析WGの活動内容説明と分科会メンバー決定

・6/29（木）第2回：運営ルール決めとゴールの設定、懇親会開催

1. 実証プロジェクトのサポート

・全プロジェクトの実証内容の理解

・現EDIとの融合・普及展開を見据えたうえで問題がないかを確認

・プロジェクト間連携のための方針検討

・実証過程におけるサポート

・現EDIとの融合に向けた課題検討

【課題分析WG】

・本件は、こちらからプロジェクトにサポートを申し出るのではなく、プロジェクトからサポートの依頼があってから活動を進めるものとする。

・現時点でのサポート依頼はない。

1. 現EDIとの融合・普及展開

現行のEDI技術をベースに「データ連携プラットフォーム」で実現できる融合・普及展開を見極める。連携対象は、企業・プロバイダ・業界など。

* + 1. 現EDIの課題調査

・現EDIが中小企業に広まらない原因を調査

・現EDIの方式で人手やコストが過大な個所がどこであるかを調査

【課題検討チーム】

・6/1（木）、6/20（火）、6/29（木）、7/11（火）　　次回：7/21（金）

・EDI導入・運用までの各フェーズに、どのようなタスクがあり、タスクごとにどのような作業があり、その作業にどのくらい労力やコストがかかり、どんな課題があるかを洗い出し、最終的にはそれら課題の解決策はあるかどうかまでを洗い出す。

* + 1. FAX代替機能の研究

・受注側、発注側双方におけるFAXの問題点を調査

・今後EDIがFAX置き換わるにはどのような方法があるかを調査

・もっとも効率が良いと思われる方法を標準化し、データ連携プラットフォームに組み込む。

【FAX代替機能検討チーム】

・6/1（木）、6/20（火）、6/29（木）、　次回：7/20（木）

・［FAX代替１］プリンタにメアドを振り、メールにPDFを添付して送ると、プリンタが自動的にメールからPDFを切り離し、プリントしてくれる。

・［FAX代替２］ベンサムが提供するハンディターミナルを使った簡易Web機能を調査の予定。

・それらの機能について実現方法や運用ルールまで、FAXの代替として検討予定。

* + 1. データ連携プラットフォームの仕様検討

・「データ連携プラットフォーム」の機能および仕様の検討

　　⇒　個別開発、クラウドアプリベンダー、パッケージベンダーの組み込みの可否検討も

含む

・現EDIとの融合・普及展開の方法について具体策を検討

・「中小企業共通EDI実装ガイドライン」をベースに「データ連携プラットフォーム実装ガイドライン」を策定

・関連業界との連携方法について検討

【FAX代替機能検討チーム】

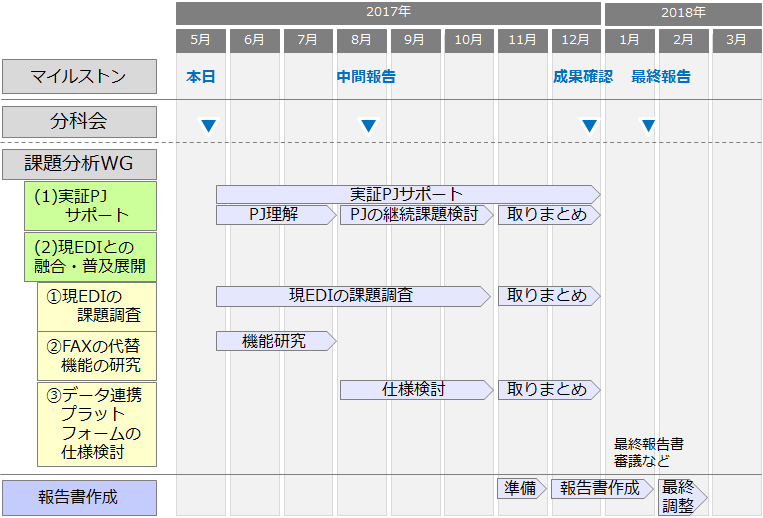
・FAX代替機能を含めたデータ連携プラットフォームの使用を取りまとめる予定。

1. 成果物
2. 実証プロジェクトの現EDIとの融合に向けた課題と今後
3. 現EDIの課題についての調査研究
4. データ連携プラットフォーム実装ガイドライン
5. スケジュール

［１］2017年度

詳細は、分科会メンバーにて検討し、技術部会・実証プロジェクト部会の承認を受ける。

1. 実証プロジェクト推進のためのサポート
2. 既存EDIとの融合と普及・展開
   * 1. 現EDIの課題調査
     2. FAX代替機能の研究
     3. データ連携プラットフォームの仕様検討



プロジェクトからサポートの依頼があってから活動を進める。

・現時点でのサポート依頼はない。

図３　スケジュール

［２］2018年度以降

引き継ぐことが可能な組織ができたなら、以下の検討を続ける

・調査研究結果をもとに実証検証を実施

・他業界との連携で必要となる機能・施策を検討

・IoTとの連携を考えたときの機能・施策（既存EDIとの融合面で）を検討

・継続的普及のために必要な機能・施策を検討

以上